

2022. 8. 21 (日) 使徒3:17~21

3:17 さて兄弟たち。あなたがたが、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行いをしたことを、私は知っています。

3:18 しかし神は、すべての預言者たちの口を通してあらかじめ告げておられたこと、すなわち、キリストの受難をこのように実現されました。

3:19 ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。

3:20 そうして、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにあらかじめキリストとして定められていたイエスを、主は遣わしてくださいませ。

3:21 このイエスは、神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。

<説教>

「ペテロとヨハネは驚くべき不思議な力を持っていて、また非常に大きな信仰を持っている。だから彼らはあの生まれつき足の不自由な人を癒やし、彼を歩かせることができたのだ。すごい。」その日、エルサレムの神殿に来ていたイスラエルの民はそう思い、非常な驚きの目でペテロとヨハネを見つめていました(3:12)。それで、ペテロはそんな思い違いをしているイスラエルの民に、「私たちを見つめるべきではない。私たちが信じているイエスを見つめなければならない。私たちに依り頼むのではない。私たちが信頼しているイエスに依り頼むべきである。私たちが大事なのではない。大事なのはイエスなのだ。自分たち人間にではなくイエスの栄光を見よ。」ということ語り教えなければなりませんでした。「あなたがたイスラエルの民は聖なる正しいお方イエスを蔑み拒んだ。あなたがたはいのちの君イエスを人殺しの男以下と見なして殺した。しかし私たちの父祖たちの神はそのしもべイエスを死者の中からよみがえらせ、栄光をお与えになった。私たちはその証人である。」「生まれつき足の不自由な人を癒やし、歩かせ、私たちと一緒に神を賛美する者へと変えてお救いになったのは、今生きておられるいのちの君イエスなのだ。」「この神のしもべイエス、イスラエルの民は殺したが神によってよみがえらされた栄光のイエス、それゆえ今も生きて働いておられるいのちの君イエス、このイエスに信頼すべきである。そういう信仰をお与えになるイエスが大切なのだ。」そう言ってペテロはイスラエルの民をよみがえりのイエスの前に引き出し、またイエスをよみがえらせた神の前に引き出し、直面させたのです。

ここまでのこのペテロのエルサレム神殿での説教は、五旬節の日にやはりイスラエルの民に対して語られた説教とほぼ同じだということができます。「ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。」(3:19)との教えも「それぞれ罪を赦してために、悔い改め(なさい)。(2:38)と言ったのと内容は同じです。しかし、五旬節の時には言っていなかったことをここでは言っています。「さて兄弟たち。あなたがたが、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行いをしたことを、私は知っています。」(17)と。〈あのような行い〉とは「あなたがたはこの方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その面前でこの方を拒みました。あなたが

たは、この聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、いのちの君を殺したのです。」(3:13-15)ということです。しかし、それは〈自分たちの指導者たちと同様に、無知のため〉であった、とペテロは言います。「自分たちは神の選びの民だ。神の律法を与えられ、自分たちは神も神の御意思も知っている。自分たちは神の約束のメシヤ（キリスト）を待ち望んでいる神の民だ。」と特にイスラエルの〈指導者たち〉は誇っていたでしょう。そんな彼らはナザレ育ちのナザレ人イエスという「色眼鏡」でイエスを見、人々が周りに集まるイエスをねたみ憎みました。〈力あるわざと不思議としるし〉を行ってご自分がキリストだと証しされたイエスを認めず、信じないでイエスを殺そうとしました。そんな〈指導者たち〉に指導されたイスラエルの民もイエスを拒み「十字架につける」と叫び、イエスを殺したのです。「聖書読みの聖書知らず」でした。「あなたがたは聖書も神の力も知らないで、思い違いをしています。」(マタイ 22:29)とイエスが指摘なさったような〈指導者たち〉の教えに惑わされ、その教えに「乗って」、〈指導者たちと同様に〉イエスについて、延(ひ)いてはイエスを遣わされた神について、そしてその「神の民」である自分たちについても多くの〈思い違い〉、見損ないをしていたのです。

そんなイスラエルの民に対して、神の方では、〈神が定めた計画と神の予知〉(2:23)には思い違いも見誤りも全くありませんでした。それで「しかし神は、すべての預言者たちの口を通してあらかじめ告げておられたこと、すなわち、キリストの受難をこのように実現されました。」(18)とペテロは言うのです。イスラエルの民の〈無知〉、思い違い、見誤りという罪は罪として認めなければならず、罪を罪だと「知り」、罪を犯してしまった事実を忘れてはなりません。しかし同時に〈無知のためにあのような行いをした〉、イエスを拒み殺した罪であっても、神の赦しが約束されている、とペテロは言うのです。その神による「罪の赦し」の根拠が〈キリストの受難〉、即ち、イエスが私たちの罪をその身に負われて十字架で私たちの身代わりに罪に対する神の刑罰を受けてくださったことです。その〈指導者たち〉を始めとするイスラエルの民(のみならず異邦人ピラトもローマ兵たちもだが)の〈無知〉故の罪と、イエスの十字架の死と、そのイエスの十字架の死(とよみがえり)を根拠とした「罪の赦し」についてはペテロが言う前に、イエスご自身が言っておられたことをルカは記しています。「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」(ルカ 23:24)と。ペテロは(おそらくヨハネからきいたのではないかと想像するが)このイエスの言葉を思い起こしたに違いありません。人間たちの〈無知〉とは全く逆の〈神が定めた計画と神の予知〉がまずあり、神が〈すべての預言者たちの口を通してあらかじめ告げておられた〉からこそ、イスラエルの民は(そして異邦人ピラトもローマ兵たちも)自覚しないままに、また間違った動機と目的のままに、〈キリストの受難〉を〈実現され)た神に「奉仕」したということはできます。もちろん、だからと言って〈無知のために〉イエスをキリストと認めずに拒み殺したという罪を罪として認めなくて良いということではありません。しかし、まさに神が実現された〈キリストの受難〉(とよみがえり)のおかげでイエスを拒み殺した罪でさえもイエスを受け入れ信じて悔い改めるなら、すなわち神に立ち返るなら、神に向かって方向転換するなら、イエスの血によってその〈罪はぬぐい去られ〉、神によって赦されるのです。死んでも生きる、イエスにある永遠のいのちが与えられます。イエスが十字架で殺され死なれたのは〈私たちの罪をその身に負われた〉(I ペテロ 2:24)ゆえ、〈私たちの罪のため〉

(I コリント 15:3)なので、私たちもイエスを殺した民の一員なのです。そんなあらゆる点で神を知らなかった私たちにイエスが神のことを教えてくださり、イエスによって信仰を与えてくださいました。そうやって受難とよみがえりのイエスによって、イエスを救い主、キリストと信じ神に立ち返る者の罪を赦し、永遠のいのちを与えようという〈神が定めた計画と神の予知〉を神が〈実現され〉たのです。神が悪魔と罪と死に対して、また私たち罪人にも勝利してくださったのです。

イエスを信じ神に立ち返り、罪を赦される者—私たち—は、私たちのために〈あらかじめキリストとして定められていたイエスを、主は遣わしてください〉り〈主の御前から快復の時が来〉る時 (20)、〈神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時〉 (21)、イエスの再臨の時を待ち望みます。〈多くの人の罪を負うために一度ご自分を献げ、二度目には、罪を負うためではなく、ご自分を待ち望んでいる人々の救いのために現れてくださ〉るキリスト (ヘブル 9:28)イエスを賛美と喜びのうちにお迎えさせていただけるように、イエスによって日々神に立ち返り、罪の赦しを乞い願うのです。